

「平成30年度 地域と学校の協働活動の充実を図る研修会」事業報告

- 1 事業名 平成30年度 地域と学校の協働活動の充実を図る研修会
- 2 期 日 平成30年 8月23日 (木)
- 3 参加者 25名
- 4 日 程

時 程	内 容
13:30	受 付
13:50	開会行事
14:00	研修1〈講義〉 中高生と社会人の 対話 による学びを創出する「三四郎の学校」の挑戦！ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
14:30	研修2〈演習〉 ※途中休息10分程度 対話を活発にする「 聴き合う・伝え合う 」チカラを高める！ワークショップ 三四郎の学校 事務局長 日賀 優一 氏
16:20	振り返り
16:40	閉会行事
16:50	

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1は、「三四郎の学校」とは何か、どのような活動を行い、どのような効果があったかについて、様々な事例を紹介しながらの講義がありました。「三四郎の学校」は、みやこ町の公民館等を活用した、中高生と大人が、自分、社会、未来について語り合い、考える地域の学び場であり、この異年齢集団による対話の実現を通して、対話を活発にする「聴き合う・伝え合う」ことの重要性を認識し、実践していくワークショップであるとの説明がありました。

(2) 活動写真



三四郎の学校の説明をする日賀氏



「対話」の大切さを聞く参加者

(3) 参加者の声

- 田舎に住んでいても、対話で世界が広がっていてすごいと思いました。
- 異質な価値観へ出会って共有するという経験の大切さがわかりました。
- 沈黙を歓迎するというルールが目からうろこでした。

研修2

(1) 内容

研修2では、研修1での講義を基に「三四郎の学校」の取組（ワークショップ『テーマ：今、子どもたちに必要な時間』）を実体験しました。その際、3つのルール（・未来を語る ・人をほめる ・沈黙を歓迎する）を参加者全員で確認し、対話ができる環境づくりを行いました。実際のワールド・カフェ形式の対話体験を通して、自分のこれまでの対話に対する姿勢を見直したり、対話のよさを体感したりでき、子どもの教育活動に関わる際のスキルや意識の向上の一助となりました。

(2) 活動写真



ワークショップの様子



感想（ふりかえり）を発表する参加者

(3) 参加者の声

- ワールド・カフェをしながら対話の本質や自分の更新をして相手の更新を少し期待するという大事なことを学ばせていただきました。
- 物事の見方を変えると違ったことが見えてくると思いました。それも自分は1つの考え方しかできなかったのですが、他のテーブルでの意見や考え方を聞いて、気づかされました。
- いろんな年代の方の感覚に触れることで、自分の中の当たり前や常識を少し客観的に見ることができました。

6 全体をとおして

「学生たちに三四郎の学校の体験をさせてあげたいです。」「ワールド・カフェ形式による対話のしかたは今後、中高生と関わる中で実践してみたいと思います。」という参加者の感想があり、子どもの教育活動における対話への実践意欲の向上を図ることができました。さらに、「子どもから問いかけられることがあったときは、答えをせかすのではなく、一緒に考えていく余裕をもった対応をできるようになりたいと思いました。」「『聴き合う』チカラを意識したいです。」という感想から「三四郎の学校」の手法やよさを体感したことで、参加者の見方・考え方が広がり、自身の活動を見直すきっかけとなったようでした。これらの様子から、地域と学校の協働活動をする参加者の資質の向上のために、来年度もこの「三四郎の学校」の手法や内容、効果を発展的に伝えることが大切であると実感しました。